

港北の消防

第67号

令和4年10月1日

編集
横浜市港北消防団
(港北消防署内)

消防庁長官表彰および 辞令交付式

四月八日港北区役所会議室において消防庁長官表彰、令和四年四月期昇任者および新任団員辞令交付式を行いました。
辞令交付式に先立ち、永年勤続功労章消防庁長官表彰を受章した田川本部長及び廣井第二分団長に対し、吉田消防署長から賞状等が伝達されました。



参加者の方々と、様々な立場として気持ち新たに、消防団活動を行うきっかけになったという声を聞くことができました。

第一分団夏季訓練会

第一分団 副分団長 加藤 英美

去る五月二十九日城郷小学校にて港北消防団第一分団の夏季訓練会を実施しました。

訓練内容は訓練礼式と震災総合訓練です。巨大地震が発生した想定で、倒壊した建物から傷病者を救出する訓練を行いました。

倒壊建物の救出・手当・心肺蘇生を行い、女性団員と協力して行いました。とても良い訓練が行えました。

近年では巨大地震の発生ほかに、短期集中豪雨が想定されています。

日産スタジアム周辺は巨大な貯水池にたもっています。鶴見川が氾濫しそうなとき、増水した水を引込み流域の浸水被害を防ぐようになっています。過去にも数回流入がありました。

今後はいろいろな災害を想定し、地域の町内会・自治会の方々と訓練を行い城郷地区の防火・防災に努めてまいります。



三年ぶりの第二分団 夏季訓練会開催

第二分団 第1班 酒井 章充

令和四年六月五日、晴天の菊名池公園プールにて、三年ぶりの第二分団夏季訓練会が挙行されました。今年も港北消防団第

二分団及び第八分団2班から総員九十六名の団員が参加しました。

当日は、自治会長をはじめとする各自治会関係者、家庭防災員、消防団OB等のご来賓を賜り、盛会の中訓練会を実施する事が



当日は、コロナ禍による長期間集団活動自粛にも拘らず、節度を保ちつつきびきびと行動し、メリハリある訓練を披露できました。

消防用ホース展示では、ご来賓の方々に実際に一〇〇ミリホースに触れて頂く事で、災害時の有効性について十分理解頂けた事と思います。

特に今回は、新たな試みとして、ロープ結案訓練展示の際、各結案方法の解説を加えると共に実生活での応用事例も織込む事で、より身近にその特徴を理解頂けたと考えます。

放水訓練は、狭所巻き四〇ミリホースを用いてガンタイプノズルにて実施、放水途中で筒先員を新入団員、女性消防団員と交代することで、篠原地区のような木造家屋密集狭隘地域における当該資機材の有効性を実感頂けた事と思います。

最後に、菊名池プールの豊富な水量を糧として、八本のガンタイプノズルとウォーターカーテンホースの一斉放水を実施、緊迫した中にも壮観な眺めで、訓練会の締めこに相応しい展示となりました。

令和四年度第三分団 および第八分団3班による 夏季訓練会について

第三分団 副分団長 小泉 守

令和四年七月三日港北区防災広場において、第三分団及び第八分団第3班による夏季訓練会が実施されました。今年もコロナウィルスまん延防止措置が発令されてい

野副分団長の開会の挨拶、第三分団吉田分団長による訓示、加藤訓練担当部長指揮による訓練礼式、資機材取扱訓練の後、第三分団第3班によるポンプ操法の実施、最後に夜間の地震を想定し港北指揮隊と連携した震災総合訓練を実施しました。ポンプ操

法訓練は五月中旬から、また訓練礼式、総合訓練等については六月上旬から訓練を繰り返して行い、訓練会本番ではその成果を十分発揮出来たと思います。総合訓練においては会場の広さの関係もあり各班長に幾度となく変更調整をお願いし、ご協力頂きありがとうございました。今回の女性消防団との共催は、男女の区別なく誰もが災害時に活動出来ることにより一層求められていることにより、今後はより実践的な訓練も取り入れ、訓練のための訓練ではなく、大規模災害が発生した時、確実に対応出来るようになることが大切であると思います。一人ひとりの力は弱くても、団員皆の力を結集すれば大きな力になります。分

団長の訓示にありましたが、「自分たちの街は自分たちで守る」とこの言葉を忘れず、団結、信頼、相互協力の気持ちを胸に刻み頭張っていきたく思います。最後に各訓練をご指導いただきました消防署職員の皆様、快く町内会館を利用させて頂



た新羽南町内会会長様、ご協力頂きました第七分団分団長様ありがとうございました。また団員の皆様大変お疲れ様でした。



第四分団夏季訓練会

第四分団 第1班 遠藤 健太

七月三日(日) 綱島東小学校にて港北消防団第四分団の夏季訓練会が行われました。私は、今年三月入団だったので、初めての訓練会への参加でした。最年少ということもあり、小型ポンプ操法の選手への誘いがありました。少し操法について調べてみると興味があったので選手になることを決めました。そもそも小型ポンプ操法とは、実際の現場で迅速・確実かつ安全に行動するために定められたポンプやホースといった消防器具の取扱いや操作の基本について、その技術を競うための大会です。今年

は、新型コロナウイルスの影響により、大会は開催されませんでした。訓練の最後は第四分団の代表として小型ポンプ操法を披露しました。大会ではないものの、熱い中主力で体を動かした成果もあり、過去にないくらい盛大な拍手をもらうことができ、嬉しかったです。これからも、地域の防災力を向上させるために、他の団員と消防団の活動に力を入れていき安全な街にしたいです。



第五分団夏季訓練会

六月十九日下田小学校校庭において、第五分団夏季訓練会を開催しました。

新型コロナウイルス感染症まん延や天候不良による開催中止が続き、訓練会を実施するのは実に三年ぶりでした。訓練は第五分団及び第八分団第5班により実施されました。

訓練内容は大規模災害発生に伴う一連の対応をステージ別に行い、実災害に即した訓練を行いました。進行はナレーションにより訓練の内容を説明しました。

横浜市内震度六強の地震が発生し、建物倒壊や火災が複数発生している状況を把握、分団本部を設置し、各班に対して活動指示を与えた。倒壊建物に人が挟まれているため油圧ジャッキを用いて救出、仮救護所に搬送し、応急手当を行った。また、心肺停止状態の救助者に対してAEDを用いた心肺蘇生法を実施した。

続いて路上を塞ぐ倒木チェーンソーを用いて排除活動を行い、火災発生に対して可搬式ポンプによる一斉放水を行い火勢鎮圧し、到着した消防隊に対し、活動報告を実施、訓練を終了しました。

来賓者からは実践的な訓練を体感したという声を聞くことができました。



第六分団夏季訓練会

六月十二日新吉田第二小学校校庭において、第六分団夏季訓練会を開催しました。梅雨晴れの蒸し暑い校庭に、地域の関係者を迎え入れて訓練を行ったのは、実に三年ぶりでした。訓練は第六分団及び第八分団第6班により実施されました。

栗原訓練部長の指揮により通常点検を行い、山本分団長を点検者とし、団員の姿勢、服装を点検したのち、訓練礼式を実施しました。

次に、手塚訓練部長の指揮により基本結索および器具結索ならびに資機材取扱訓練を実施しました。



種目ごとに団員が結索を展示し、災害発生時の自身の安全確保や資機材の吊り上げ等に活用するためのものです。

続けてチェーンソーとエンジンカッターの取扱訓練を行い、チェーンソーは実際に木材を切断しました。実施者は安全保護員を身に付け、自身の安全管理に留意して活動を行いました。

器具等の取扱いに対する各団員の真剣な眼差しが印象に残りました。

最後に長瀬副分団長の指揮により、可搬式ポンプ三台を活用した一斉放水を行い、すべての訓練を終了しました。

本年度も感染症防止対策とともに熱中症予防対策の一環として、消防訓練センターから借用したミスト発生器付扇風機を活用し、関係者から好評を得ることが出来ました。

第七分団夏季訓練会

第七分団第1班 班長 中村 節男



令和四年六月五日に第七分団の夏季訓練会が実施されました。訓練会の実施は令和元年の夏季訓練会以来



三年ぶりの実施となります。

昨年の夏季訓練会も実施する方向で進めていたのですが、残念ながら、残念ながら直前で中止せざるを得ない状況となりました。

訓練会の内容は、昨年計画した訓練を踏襲し実施され、礼式訓練と災害対応訓練を各班で分担する形で行いました。災害対応訓練として倒壊建物からの救出訓練を想定し、エンジンカッター、チェーンソー、油圧スプレッドラム、発電機、投光器、バルーン照明、担架、AEDの取扱いを中山訓練部長の号令のもと、順次実施する形で行いました。各班においては、班長が団員に指示を出し、団員からの応答を確認し、次の指示を出す形で器具の取扱いに関して危険が生じないように注意し実施しています。

最後には、7班と第七分団管内の第八分団女性消防団員による可搬式小型ポンプによる放水訓練が行われました。私の所属する第1班は礼式訓練に団員二名、バルーン照明の設置・点灯・撤去に四名が参加し、実施しました。今回担当したバルーン照明は、第七分団では一基を保有しており、分団共用の器具置場に保管されていますので通常の班での器具点検時には、触れる機会のない器具となります。従いまして、訓練会当日までに事前に取扱いに慣れる時間が

女性団員参加の夏季訓練会

第八分団第4班 谷内 光

必要と考え、共用の器具置場から第一班の器具置場に移動し、月一回実施しています。通常の器具点検日に取扱いの習熟を行いました。と、これまでのことは実は昨年の訓練会の予定日の前に実施したことで準備万端だった状況で、訓練会が中止されたことは残念でしたが、本年度の訓練会にて逡巡することなく取扱うことができ、良かったと思っています。

「災害が発生しても対処できるように器具点検と取扱いの習熟に努めてまいりませう。」

令和四年度港北消防団第四分団夏季訓練会に参加しました。当日は、訓練礼式、大規模震災対応訓練を実施し、大規模震災対応訓練に関しては倒壊建物から要救助者の救出、仮救助所での応急救護活動、大規模火災放水訓練、高所建物に取り残された要救助者の救出を行い、その中で八分団4班は、仮救助所での応急救護活動及び放水訓練を担当しました。

平成十一年度、私は寿消防団(現南消防団)に入団し、八年ほど活動しました。

平成九年度に女性消防団が発足したばかりで試行錯誤を行っていた最中で、当時は主に訓練礼式や広報活動が女性消防団員の活動となっており、実際の災害を想定した訓練等はそこまですで力を入れていなかったと記憶しています。消防分野に関しては、

女性団員の制限の名残がまだある時代で、訓練を担当していた方からも「女性の消防士(火災現場で放水活動をする人)は今のところいない。」と説明を受け、放水訓練を女性消防団員がやることはなかったです。ご縁があり、平成三十年度に港北消防団に入団させていただき、その変化に驚きました。活動内容は以前とは大きく異なり、女性団員も資機材の取扱いや放水訓練を行っていることを知りました。消防団員は会社員、自営業、主婦、学生など本来の仕事や学業を持ちながら活動しています。

実際の災害はいつ起こるか予測できないからこそ、即座に活動できるよう、職業や性別に関係なく訓練を行うことは非常に重要だと思います。今回の夏季訓練会では、放水の担当をさせていただきました。実際、筒先を持ち放水を行って一番感じたことは重さです。約4キロの水圧での放水は想像以上に二名保持の体制でも大きな負荷を感じ、放水の反動力を抑えコントロールする必要があります。重さや負荷を考えると、女性より男性が放水を行うほうが向いているかもしれません。ですが、女性の私でも操作はできましたし、女性団員の活動範囲が広がることで、初期消火や延焼拡大防止活動をスムーズに行えるということに繋がります。

団員が効果的に活動できるようにする今回のような訓練はとても貴重で重要なものだと再確認することができました。



積載車の事故防止には、機関員と同乗団員との連携が不可欠。

第七月二十日、菊名ドライブイングスクールにて積載車交通事故防止訓練が行われました。

積載車の事故防止には、機関員と同乗団員との連携が不可欠。

第七月二十日、菊名ドライブイングスクールにて積載車交通事故防止訓練が行われました。

積載車の事故防止には、機関員と同乗団員との連携が不可欠。

第七月二十日、菊名ドライブイングスクールにて積載車交通事故防止訓練が行われました。

港北区内の火災情報

令和4年9月20日現在

火災発生状況		令和4年	令和3年	増△減
年別	件数	49	40	9
火災種別	建物	31	28	3
	林野	0	0	0
	車両	7	1	6
	船舶	0	0	0
	航空機	0	0	0
	その他	11	11	0
焼損床面積	269	996	△727	
損害	死者	1	4	△3
	焼死者	1	4	△3
	放火自殺	0	0	0
	負傷者	5	9	△4

主な出火原因

年別	令和4年	令和3年	増△減
1 電気機器	10	4	6
2 たばこ	8	8	0
3 こんる	5	7	△2
4 配線器具	4	0	4
5 ストープ	2	1	1

た。自動車学校が終了して午後八時十五分からの夜間訓練でしたが、火災予防広報や年末警戒などは夜間に実施する事が多いので、昼間の訓練よりもより実践的な訓練であると思われました。まずは署員による交通事故の事例を聞き、事故は通常の走行時・点検時に発生する事、運転者だけでなく乗車している全員で周囲の安全確認をすれば事故は防げる事を教えていただきました。

積載車による事故は、ヒューマンエラーに起因するものが多く、「見落とし」「不注意」「機関員と団員同士の連携不足」が要因であり、機関員のみでの不注意だけでなく、同乗している団員全員が声がけをすれば事故の発生を未然に防ぐ事が出来そうです。

積載車を走行させての訓練は、教習所内の信号や標識に従って行いました。自分が機関員として縦列駐車や車庫入れを行い、団員三名が下車をして周囲の安全や障害物等を確認しながら



誘導をしてくれたのですが、三名同時に「オーライ・オーライ」「ハンドルを切って」「ミラーが当たるよ」など誘導を始めたので、誰の言葉を聞いたらいいのか困惑してしまっただけで、「誰か一名が主に誘導をして、他の二名は危険な場合に停車の指示を出してください」と頼んだところ、迷わずにハンドルを切る事が出来ました。

事故は完全には防げませんが、団員同士の連携により防げることが出来たと感じました。

編集後記

地球温暖化が進行しているせい、今夏は酷暑に豪雨と異例な大雨の天候が続き、自然災害の発生に不安を感じている方が多いと思います。

コロナ禍、制約のある中での消防団活動(訓練・広報)を通して、地域の方々の不安を少しでも和らげることができればと思います。

編集委員が集まったの編集会議が開催できませんでした。関係者の皆様、苦勞様でした。(第一分団 窪倉 敏)

第22期 編集委員

本部	第一分団	第二分団	第三分団	第四分団	第五分団	第六分団	第七分団	第八分団
鈴木 基祥(編集顧問)	齋藤 信之(編集委員長)	窪倉 敏	峯岸 義孝	小泉 守	鈴木 智	酒井 誠	長瀬 一夫	西山 裕一
								畑野 悦子